



日刊新報 日曜日誌 日休月一ヶ月廿五 日休月一ヶ月廿五 日休月一ヶ月廿五

江南北戦護國の散華

石城郡關係の五勇士

江南北及び江北戦線に於て兩角部隊に屬し昨秋から今年一月にかけて奮戦名譽の戦死を遂げた勇士の中に石城郡關係五勇士を昨七日原隊から發表されたが同勇士は左記の如くである

- ◇荒川清上等兵、鹿島村の御代出身、荒川源重(金三)氏の長男で未だ獨身、郷家には父と祖父吉松氏(八)及び母と姉二人あり、出陣前まで同村の堀内出身、郷家には妻けささん(二八)との間に長女たみ子さんを頭に四人の子がある
- ◇佐川信孝上等兵、泉村の黒須野出身、佐川恒代(五五)氏の長男で出征前まで在郷軍人、青年團の幹部としてゐた、實家は父と母とよさん(五五)の間に三人の女子と二人の兄弟がある
- ◇田邊操上等兵、泉村の畑中出身、長松氏の弟で出征前まで内郷村野城炭礦坑の運搬夫をしてゐた、同村宮澤に居住する留守宅には妻はつるさん(三三)との間に三男一女がある
- ◇蛭田倉之助上等兵、山田村出身、倉次郎氏(七〇)の長男で郷家には母つね(六六)と

吉田入山坑務所長

石城郡湯本町の入山坑務所長吉田宗雄氏が病氣療養中であることは既報の如く一時危殆に陥り全山愁鬱に陥つて人事を盡した上神佛に祈願をこめ只管快癒を祈られてゐたが其の病小瘳を得て若干愁眉を開かれたのも間もなく昨七日午後三時四十分遂に不歸の客となつた同氏は熊本縣天草郡上村生れ東京帝大法科獨逸法律科卒業大正八年入山に入社性温厚篤實敏腕よく用ひられて大正十五年には露領森林利權交渉員として露都モスコウに滞在後歐州各地を視察して歸朝昭和五年現所長となり一昨十一年同社取締役に就任今

自肥増産協議

昨日園休事務所自給肥料増産協議會は昨七日午前十時から平市園休事務所樓上に開かれ石城郡各町村技術員、農會長、町村長、勸業主任、各種團體代表を會し縣から山川農務課長、園休農務課長、肥料官田中技師、白木(小麥)技師、古賀技師等臨席協賛打合せをなし午後自給肥料實行委員會に移つて非常時下に於ける肥料對策につき協議をなした

水難救助者の表彰申請

豊間の救助功勞

石城郡豊間村の水難救助會で昨年十一月二十六日午後八時半頃同村河原の蘆谷御燈台下に於て茨城縣川尻町金成寅次郎所有發動機漁船更生丸十九噸船長稲田初太郎外乗込漁十五名が掉礁した際數十名出動これを救助したが就中盡力された十五名表彰方を平署に望み同署では調査の上縣に向つてその申請をなす模様である

受驗者

七十六名の盛況

武徳會本縣支部の武道(劍道)講習會は既報の如く縣から小川文章教士出張する三日から五日まで平署演武場に開かれ最終五日の午後階級試驗を施行したが受驗者は初段四四、二段二二、三段六、四段四計七十六名を算した内三、四段の受驗者を上れば左記の如くである

忠魂碑建設資金

石城郡豊間村では未だ忠魂碑が建たず日露、日露その他の戦死戦没者が村内に在るに對して申請がないと同村小學校高等二年受持訓導大和田一學生から促さる

北支中支を視察して

十八、猶太人は英國以外に資本の安全地を心の中で求めて居るのではなからうか。彼等の求めて居る安全地の中に日本があり、そうして方法に依つては第一の位を占めるのではなからうかと思はれる。

座講識常

戰地支那隨一の稱ある馬家、老陸、三家村

美氏の發心から兒童に謀り校内に竹筒を吊して一、二錢づつを融金し同資金を造成中にしてゐるとあるが之に促がされた村民有士も共鳴し該資の造成に盡してゐると

慰安の映畫會

石城郡湯本町の國防後援會

石城郡湯本町の國防後援會で今次事變の軍人遺家族慰安の爲め昨七日午後六時から同町三國座に映畫會を開催した

運轉手を採用

平消防組では自動車運轉手一名採用の筈であるが希望者は

懐しい姉を探す

親戚のない老後に東京市豊島區池袋一(五二)三高野方の吉田きよ子は六十才に近い老ひ先きに語り合ふ親戚もなく寂しい境遇に於て自分の姉が石城郡江名町榎木戸口七吉田榮助(七〇)の妻になつてゐるな(四)のあることを最近風聞されてゐるので自分分は次女とめである居るならば遇ひたい懐しくたまらぬと昨七日平署に實否を質して貰ひたいと願出た

同志争ひ

石城郡内郷村の綴材木商渡邊義雄(五五)は昨年十一月中市仲町材木商佐川芳太郎から假差押を受け其の保管を命ぜられた木材の中から三十圓分をぬき取り他に賣却したこと發覺保管物積領で告訴され小名瀨町材木商木田某の仲裁で告訴取下げとなつたが其筋では尙ほ事件として取調中である争ひの起りは昨年九月郡内磐崎村岩ヶ岡光正寺の杉山を

入山探炭株式會社取締役坑務所長吉田宗雄儀豫テ病氣ノ處本月七日午後三時四十分福島縣湯本町坑務所ニ於テ死去致シ候間此段謹告仕候

追テ葬儀ハ本月十日午後二時坑務所自治會館ニ於テ葬拜テ以テ執行可仕候 昭和十三年二月八日 男 吉田宗雄 親戚 入山探炭株式會社

十九、支那の幣制統一が此戰爭を爲さしめた。又斯くまで大規模で、又斯くまで續いた。更に續かしためんとして居る。とも云へると思はれた。

廿一、やり方によつては以前よりも歐米人は支那に投資するだらうと考へられる。支那の課税問題に就いては時間がなくて少しも觸れずには歸つた。又其に關しての本も是迄讀んだことがないが、消費稅式が支那人の根性からして一番よいのではないかと思はれる。

御誂ひの既製食品

高島屋洋行

高島屋洋行 本店 三軒目

高島屋洋行 支店 三軒目

高島屋洋行 支店 三軒目

産業方面

魚の罐詰 製造に就て

其の設備と行程
その他につて

殊に都會地附近に於ては蠅の驅除に注意して居り、例へば最近東京の進んだ工場では廊下を暗くして各室に金網を張り、工場の屋根からも採光の方法をとるなど極力場内の衛生、保健上に注意する必要がある、これ等の設備改善は殊に腐敗し易い材料を使ふ魚の罐詰工場などに於ては注意すべきものであるに拘はらず一般には金が掛り過ぎるからと云ふ理由でもつて放任されてゐる傾きがある、しかしこれは技術者の設計の仕方如何によつては少ない費用で充分に出来るのであるから是非とも勵行するやうに勸めたい。

暗渠式の排水、工場の排水設備が従來のものに不完全極まるものが多い、排水については絶対に場内に溜を設けてはいけない必ず外に流すことにする、しかも外の下水は必ず暗渠式のものにせねばならぬ、また排水溜には必ず蓋をして細菌の傳播を極力防除すべきことは云ふまでもないことだが是れ等の常識的にもよくわかつてゐる筈のことが案外實行されてゐないのは甚だ遺憾である、また工場の床は排水作業の關係から矢張りコンクリートが最適である、食用錫油罐詰、罐詰めについては水産試験場をはじめ各當業者が常に材料の擴大

と品質の向上に努め。

正確な体温計
寒暖計(種各)
計量器指定販賣
平市五丁目角
山野邊藥局

牛も豚も優良品の自慢

平市 田町
肉の御 三三三屋
用命は



醤油味噌
たひら正宗
節約食料品

お醤油は ヤマフル

山崎合名會社

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

電話 一六二七番

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 大岩俊雄

山崎合名會社
平市新川町九一
入院隨意 木村病院
病室完備 電話一六四番

銀あべ 牛鳥
串カツ汁

珍味御試食願上ます

チンヤ式食堂
静かなお座敷

一の井
平市三田小路・電一六七

目科療診

一、齒科 一般
保存科、補綴科、鑲齒架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科

一、口腔外科
一、レントゲン科

中野齒科醫院
平市田町(松月堂向ひ)
院長 日本齒科 中野 惠次
日本齒科 西川 誠
日本齒科 西川 誠
電話五〇九番

外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科

晝夜 北川外科
診療 (血液検査毎日)

平市新川町二七(電四六四)
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保
入院デキマス

レストラン

サロシ

食事。喫茶。酒場を兼ねた。

町田平 二五三電

モートル 變壓器 販賣、修理

社會資合 所工鉄藤佐

町見月市平 (番二六三話電)

安田系統の帝國海上

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内正
平町二丁目 事務取扱者 阿部助次郎
電話一六番

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

スヘイン G・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10

婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です

(平2) 西村屋藥舗 (電3)

和洋銅鐵、金物問屋

店商屋釜

九九・九電

便利で 經濟な 日下家政婦會の 派出婦御利用

身元確かで品行方正ですから 何をお任せしてもご安心です。

平日町十八(西村屋藥舗町)

日下家政婦會
會長 日下すい子
電話七二三番